

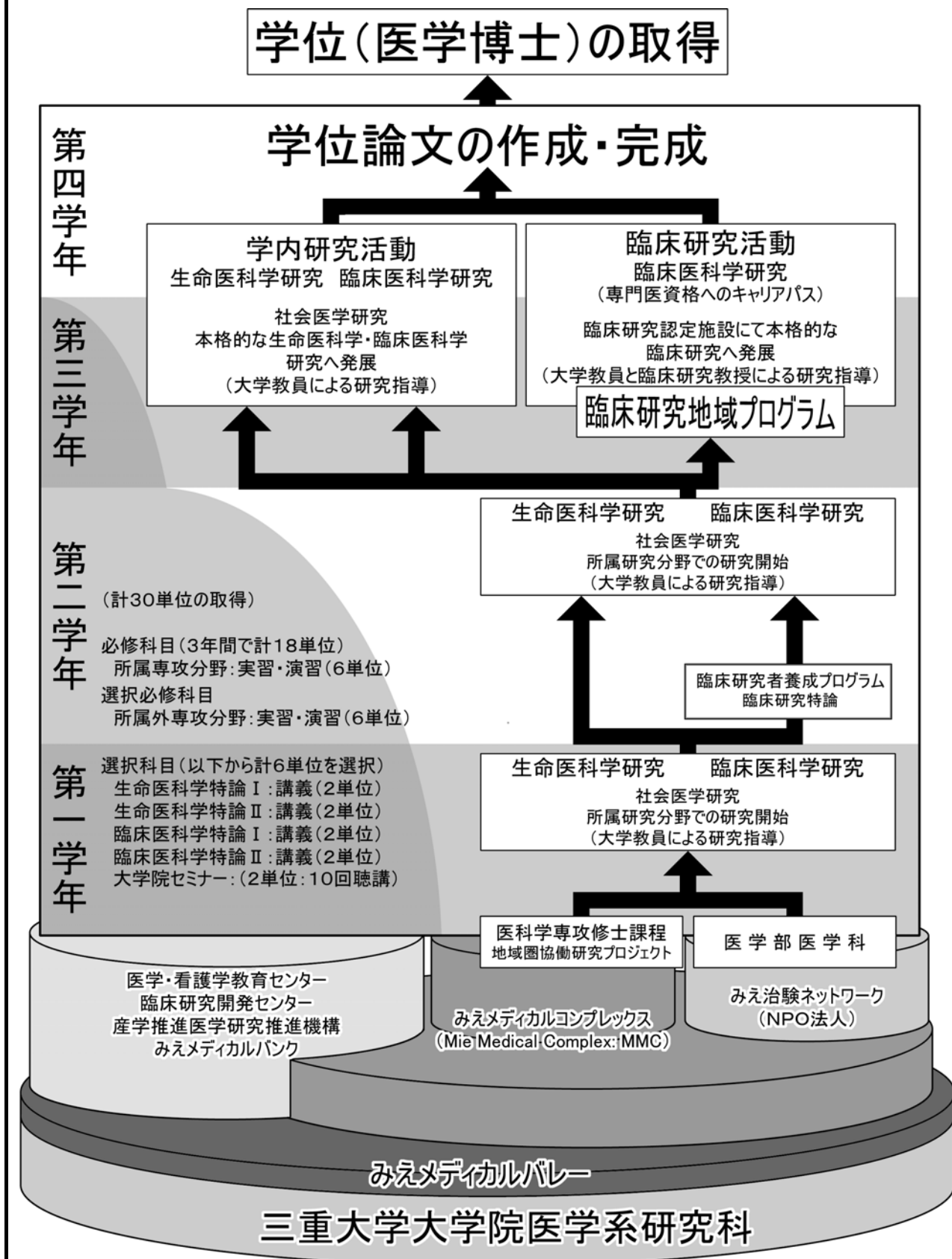
平成18年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成18年4月現在)を抜粋

機 関 名	三重大学	整理番号	f003
1. 申請分野(系)	医療系		
2. 教育プログラムの名称	地域と時代に応える医学・医療研究者の養成 (臨床研究者養成プログラム・臨床研究地域プログラムによる実践的改革)		
3. 関連研究分野(分科)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 基礎医学、社会医学、臨床医学		
(細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (生命医科学、臨床医科学、臨床疫学、臨床研究、POR(patient oriented research))		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 (〔 〕書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 医学系研究科・生命医科学専攻 〔博士課程(一貫制)〕	研究科長(取組代表者)の氏名 駒田 美弘	
(その他関連する研究科・専攻名)			
5. 本事業の全体像(わかりやすく、具体的に記入してください。)			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
本学は地域圏大学として、地域に根ざした研究を基盤としながら世界に通用する高度な研究の展開を目指している。本学大学院は5研究科から構成され、地域に貢献し社会の要請に応える人材の養成を教育の目標に掲げている。各研究科が独自の努力で、カリキュラム改革・学生指導の改善等に努める一方、生命科学研究支援センターをはじめ全学組織が、各研究科の教育と研究を支援する体制をとっている。また、大学院への留学生受け入れの支援や学内COE制度、若手研究者支援事業などによって独自の研究支援体制を図るとともに研究科を越えた学際的な知識習得のための単位取得制度も平成18年度からの施行が決定された。 本学医学系研究科は昨年、全学のトップをきって大学院中心の体制を整備し、大学院教育と研究に主体を置く部局化へと移行した。平成18年度には、生物資源学研究科、工学研究科も部局化を行うことになっている。これを機会に全学としても、人的財政的な支援として、学内COEの大型研究費や教員補充、研究棟の改修を含む研究環境の整備などで、医学系研究科への全面的支援を強化している。一方本学では文理融合型大学院設置構想を進めており、本事業の推進は、将来の大きな構想実現のための基盤になると位置付けている。			

機 関 名	三重大学	整理番号	f003
5-(2) これまでの教育研究活動の状況(これまでの改善点と、今後の課題について) 本学では平成13年全国で5番目に医科学専攻(修士課程)を設置し、大学院教育の改革と充実を行ってきた。大学院の部局化の一環として、大学院教育の実質化への改革の具体案を練り、生命医科学特論および臨床医科学特論の開講を決め、専門を越えた医学と医療の現状の理解と、倫理的素養の修得に繋がるカリキュラム等の実施を平成17年度に実施した。平成18年度には、このカリキュラムの一層の充実と、学生や若い医師のニーズ(専門医へのキャリアパスと学位取得の両立)に沿うカリキュラムやプログラムも計画中である。具体的には臨床医科学特論の一部にEBMや臨床疫学への理解を深めるための臨床研究特論を開設し、英語による講義の導入も計画している。また今年度採択された「派遣型高度人材育成協同プラン」による修士課程での関連講義の充実と全学開放も行なってきた。一方、大学院生を含む若い研究者の特徴ある優れた研究を支援する新研究プロジェクト事業は10年以上の実績を持ち、自ら研究を推進する能力の開発に寄与している。また、学部学生対象に1年半にわたり実施している研究室研修も本学の特徴であり、研究者志向への強い動機付けになっている。			
5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(5-(2)を踏まえた大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組、発展的展開のための計画、及びこの取組によって改善が期待される点について) 大学院教育の充実を図り、大学院修了者に相応しい能力を身につけた研究者を送り出すことを目指した取り組みを進める。特に大学院の目的として生命医科学研究者の養成に加えて、「優れた臨床研究推進者の養成」を掲げ、そのための具体的実践計画を策定し、将来の臨床研究の担い手の養成に力を入れたカリキュラムを展開する。当学部は組織的には昨年4月からの部局化により、1専攻の大講座体制に改組し、55の教育研究分野で構成される基礎臨床融合型の体制とした。これを基盤としつつ、特にこの事業の中で以下の具体的計画により教育体制を整備する。 1)「臨床研究者養成プログラム」:これにより優れた次世代臨床研究の担い手を養成する。 a) 教育内容の改善と実質化:科学性倫理性を備えた臨床研究者養成のため「生命医科学特論」と「臨床医科学特論」の一層の充実と臨床疫学や生物統計学を含む「臨床研究特論」などカリキュラムの改善と充実。 b) 教育方法の工夫:自ら考える科学者を養成するための少人数教育PBLチュートリアルの導入。国際性学際性豊かで広く世界で活躍する臨床研究者を養成のための大学院教育の国際化。臨床研究者養成・大学院教育に関する国際シンポジウムの企画と教員意識の一体化のためFDの実施。 2)「臨床研究地域プログラム」:地域医療機関を審査のうえ大学院教育施設として認定し、当該施設と大学が連携協力し一体となった新しい大学院教育システムを構築する。また臨床専門医養成と臨床研究者養成の両立可能なキャリアパスの構成を図る。一部の医療研究施設に関しては連携大学院構想のもと協同研究体制の構築を推進している。 3) 教育研究環境・大学院生支援体制の整備:臨床研究を推進し臨床研究者養成を基盤として支える「臨床研究開発センター」の設置、「みえ治験医療ネット」の整備発展などの学内外の諸機構の整備を図る。臨床系大学院生の大学病院での診療活動に対してCA(Clinical Assistant) 制度を創設し大学院生の待遇改善を図る。			

6. 履修プロセスの概念図(履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。)



機 関 名	三重大学	整理番号	f003
＜審査結果の概要及び採択理由＞ 「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。 本事業の趣旨に照らし、 ①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか ②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が非常に優れており、十分期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に十分適合しており、その実現性も高く、一定の成果と今後の展開も十分期待できると判断され、採択となりました。 なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。 [特に優れた点、改善を要する点等] ・地域特性、時代の要請を的確に把握し、地域連携を基盤に大学院教育を充実させる教育プログラムを具体的かつ周到に構築している点は、我が国で最も必要とされている分野であり、独創性と実現性も高いものと評価できる。 ・また、臨床研究教育支援組織として臨床研究開発センター、みえメディカルバンク、みえ治験医療ネットなどが既に始動していることも、本教育プログラムの高い実現性を示すものとして評価できる。			